

# 一般財団法人新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院

## 施設総合管理業務委託 環境整備業務院内清掃等仕様書

### 1 業務項目

- (1) 清掃業務
- (2) 廃棄物収集業務
- (3) 研修医宿舎・看護職員寮清掃業務
- (4) 衛生害虫防除作業
- (5) 玄関等出入り口床用マット管理業務

### 2 業務履行日、業務時間

#### (1) 清掃業務

##### ア 日常清掃

##### (ア) 作業日

別紙1 清掃業務基準表のとおり

##### (イ) 作業時間

原則として、作業は午前7時30分から午後9時までの間に行うこと。ただし、業務に支障のある箇所については、当院と協議の上、指定された時間帯に行うこと。

##### イ 定期清掃、特別清掃

##### (ア) 作業日、作業時間

当院の担当者と協議し、当院の業務に支障のない日時にて実施すること。

#### (2) 廃棄物収集業務

『(1) ア 日常清掃』に準ずる。

#### (3) 研修医宿舎・看護職員寮清掃業務

『(1) ア 日常清掃』に準ずる。

#### (4) 衛生害虫防除作業

『(1) イ 定期清掃、特別清掃』に準ずる。

#### (5) 玄関等出入り口床用マット管理業務

『(1) ア 日常清掃』に準ずる。

### 3 清掃区分

清掃の区分は、次のとおりとする。

#### (1) 日常清掃

(2) 定期清掃

ア 床面洗浄ワックス仕上げ

イ 床面洗浄

ウ カーペットクリーニング

エ 高度清潔区域

(ア) 天井・壁・床・制気口等の清拭消毒

(イ) 天吊機器のアーム部分を除塵及び清拭消毒

(ウ) 床面洗浄

(エ) 付着細菌検査

オ ゆきぐに大和病院内当院借用部分 床面洗浄ワックス仕上げ

(3) 特別清掃

ア 窓ガラス清掃

イ 網戸清掃

ウ 高所・壁面清掃（照明器具・制気口・カーテンレール）

エ 制気口清掃（吸入口シャッター部）

オ メディカルアーケード天井清掃

カ メディカルアーケード床面清掃

キ サービスヤード天井・壁面・床

ク ルーフドレン清掃

ケ 2F 外来デッキ清掃（天井・壁面・床）

コ 建物周りコケ落とし

サ 病棟エントランス清掃

シ 研修医宿舎・看護職員寮清掃

(ア) 窓ガラス（専有部は外側のみ）

(イ) 床面洗浄（廊下・階段）

(ウ) 高所除塵（照明器具・天井・壁面等）

ス ヘリポート洗浄

セ 厨房内グリースフィルター清掃作業

ソ 個人情報書類運搬

(4) 退室清掃

患者様 退院後

4 清掃ゾーニング

作業区域は、清潔度及び汚染度に応じて次のとおり定めることとし、区域ごとの特性に応じた日常清掃及び定期清掃を行うこととする。なお、室ごとのゾーニングは、別紙清掃業務基準表のとおりとする。

(1) 高度清潔区域

- (2) 清潔区域
- (3) 準清潔区域
- (4) 一般区域
- (5) 汚染管理区域
- (6) 汚染拡散防止区域

## 5 業務内容

清掃方法、清掃実施回数、清掃実施箇所及び面積については、仕様書及び清掃作業基準表に準ずる。

### (1) 清掃業務

#### ア 日常清掃基本事項

各専用部・共用部ごとに別紙清掃業務基準表で定める項目の実施を基本とするが、加えて次に定める事項についても実施すること。

- (ア) 医療ゾーンと一般ゾーンに区分したゾーニング管理により、ゾーン専用の清掃資機材等の基本カラーコントロール（使い分け識別）を行うとともに、感染（拡散防止）対策に重点を置いたオフレーション清掃方式の医療清掃システムで実施すること。
- (イ) ドア上部、桟、壁面上部及び天井の通気口等に存在する埃等を高所除塵に適した用具（H E P Aフィルター付き掃除機又は除塵用モップ）で、適宜除塵すること。
- (ウ) ハードフロアーは、ゴミや埃が空中に舞い上がらないよう注意しながら清潔なドライモップ又はH E P Aフィルター付き掃除機で除塵を行うこと。
- (エ) カーペットフロアーのゴミや埃の除塵を行う。掃除機で除塵を行うこと。
- (オ) 冬季（11月～3月）は、窓ガラス等の結露を除去すること。
- (カ) 病院内サッシ、窓枠のカビなどの汚染がある場合は除去すること。
- (キ) 備品等はE P A登録に準じた除菌洗浄剤を用い掃除を行い、ガラス、ステンレス部分も同様とすること。
- (ク) ゴミ箱の中にあるゴミを取り除き、汚れに応じて1回/週以上の頻度にてゴミ箱のビニール袋を交換すること。また、ゴミ箱は、the Environmental Protection Agency：アメリカ環境保護局（以下、「E P A」という。）登録に準じた除菌洗浄剤を使い、容器の汚れを取り除くこと。
- (ケ) 診察室や処置室等の清掃を行う場合は、それぞれの特殊性に応じ、変更のある場合は病院職員の指示に従うこと。また、別途マニュアル等を定めている場合は、それに従うこと。
- (コ) 診察室や病室等を清掃する場合は、室内にいる職員や患者等に対して清掃作業のために入室する旨を丁寧に伝え、了解を得ること。不在の場合は、最寄りの職員に声がけの上、清掃作業を行うこととする。

(サ) エレベータの清掃は利用者の少ない時間帯に行い、EPA登録に準じた除菌洗浄剤を用いて、手摺り、低所壁面及び扉を清拭し、ステンレス、鏡に曇りがないように仕上げる。床面については同様の除菌洗浄剤をしみ込ませたモップを用いて拭き上げ、レール部分の溝は埃や汚れの稚積がないよう仕上げる。また、汚れの通報があった場合には随時速やかに清掃を行なうこと。

(シ) エスカレータの清掃はゴム手すりを固く絞ったタオルで拭き上げ乾拭きすること。スカートパネル及びガードは乾拭きを行い、ガラス面は必要に応じてガラスクリーナーを使用して磨くこと。ステップは、自在ホウキまたは真空掃除機を用いて除塵し、汚れに応じてモップで拭き上げること。

#### (ス) 共用部関係

- A 階段の清掃は床面のほか、蹴込み板、巾木、手摺り、棧、壁の部分的汚れなども清掃を行うこと。
- B 廊下、ホール等の壁の汚れはEPA登録に準じた除菌洗浄剤を使い、汚れを除去し、クロスで拭くこと。
- C 廊下、ホール等の共用部が、何かしらの事情により汚染された際は、清掃作業基準表の回数に関係なく、適宜対応すること。
- D 駐車場（職員駐車場を含む）や側溝などの外回り、屋根付き職員駐車場や病院回りは、落ち葉、空き缶、吸殻の拾い掃きを行うこと。

#### (セ) 留意事項

- A 清掃ゾーニングごとに清掃用具を使い分けること。
- B 一般区域以外の作業に当たっては、区域ごと（病棟においては病室ごと）に使い捨て手袋を交換することとし、手袋をはずした後は必ずアルコール式手指消毒剤を適切に使用し消毒すること。
- C 清掃時に動かした備品類は、作業終了後もとの状態に戻すこと。
- D 防火戸の前又は防火シャッターの下には清掃用具を置いてはならない。
- E 防火戸の前又は防火シャッターの下物品が置いてある場合、当院まで報告すること。
- F 清掃作業に使用しない用具、器材は全ての所定の場所に収納し、患者の目に触れる場所に置かないこと。
- G 常に業務内容の見直しを行い業務改善に努めること。
- H 病室の医療機器及び患者使用備品類（ベッド、オーバーベッドテーブル、テレビ、ロッカー、椅子、冷蔵庫、ベッドランプ等）は清掃対象外とする。

#### イ 区域ごとの作業内容

##### (ア) 高度清潔区域

上記『5（1）ア 日常清掃基本事項』のほか、次の事項により高度清潔区域の日常清掃を行うこと。

A 対象（※（B）にあつては、運用休止中ため病室に準じる）

（A）手術室6（BC）及び前室

（B）クリーン病室（2室）及び前室

B 業務体制

専門の従事者1名以上で実施すること。

C 業務日

（A）手術室6（BC）及び前室

毎日

D 業務時間

（A）手術室6（BC）及び前室

7：30～9：00

E 作業員の服装

（A）作業衣 ※手術室6（BC）では、作業衣の上にガウンを着用すること。

（B）作業靴（区域専用とする）

（C）ディスポキャップ

（D）ディスポ手袋

（E）サージカルマスク

（F）ゴーグル

F 作業手順

次の業務について、毎日及び患者退室時に実施すること。

なお、業務時間中に緊急手術が終了した場合や緊急手術が予定されている場合は、手術室スタッフに業務実施の可否について判断を仰ぐこと。

（A）手術室6（BC）及び前室

a 作業靴から病院の貸与するサンダルに履き替え

b 手術室スタッフステーションに入室（入室後は内側から施錠する）

c 作業衣の上から病院が貸与するガウンを着用、手指消毒、サージカルマスク、キャップ、手袋、ゴーグルを着用

d ゴミを回収しゴミ袋を交換

e 手袋を交換

f 天井面（血液等汚染個所のみ）を清拭

g 壁面（血液等汚染個所のみ）を清拭

h スイッチ周辺等の清拭

i 床面を清拭

j 前室の床面を清掃

（イ）清潔区域

上記『5（1）ア 日常清掃基本事項』のほか、次の事項により清潔区域の日常清掃を行うこと。

- A 清潔区域は、専任従事者を配置すること。
- B 入退室時の手洗い、ガウンテクニック、ディスポ手袋、サージカルマスクの着脱、清掃用具の区分使用等により清潔度を保持すること。
- C ゴミ箱の中にあるゴミを取り除き、毎回ゴミ箱のビニール袋を交換すること。
- D ゴミ箱が汚れている場合、EPA登録に準じた除菌洗剤を用い取り除くこととし、汚染時は直ちにゴミ箱を交換すること。
- E ハードフローは消毒剤を入れた容器に浸したモップで拭くこと。
- F 感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）により定められた病室の清掃及び消毒業務を行う場合は、感染源の拡散を防止すること。

（ウ）準清潔区域

上記『5（1）ア 日常清掃基本事項』に準ずる。

（エ）一般区域

上記『5（1）ア 日常清掃基本事項』に準ずる。

（オ）汚染管理区域、汚染拡散防止区域

上記『5（1）ア 日常清掃基本事項』のほか、次の事項により日常清掃を行なうこと。

- A トイレの床は、除菌洗剤を使いモップがけを行うこと。
- B 大小便器は毎回全面清掃を行うこと。特に、便器の目皿や便器の裏側、大便器のシャワーノズルなども入念に行うこととし、その際、除菌洗剤を用いて陶器を傷める事のないよう注意すること。
- C 鏡は毎回清拭を行い、必要に応じてガラスクリーナーを使用して磨くこと。
- D 洗面台は除菌洗剤を使い全面清掃を行うこと。また、ステンレス部分は仕上げに乾拭きを行うこと。
- E 扉、ブース扉、手摺、取手周り、便座、衛生金属など高頻度接触箇所については、清掃作業後EPA登録に準じた除菌洗剤を使い除菌作業を行う。金属部分については錆が発生しないように乾拭きを行うこと。
- F 流し台の清掃はステンレス部分に傷がつかないように注意して清掃を行い、茶シブ等の汚れを除去すること。
- G 手洗い石けん、トイレットペーパーの補充交換を行うこと。

（2）定期・特別清掃

ア 定期・清掃基本事項

（ア）床面洗剤ワックス仕上げ

- A 床面のごみ・砂・埃等を除去すること。
- B 洗剤を床面に塗布し、ポリッシャーにて洗浄すること。

- C ウェットバキューム、スクレパー等にて、汚水を除去すること。
- D 水拭きをする事。
- E 床面を十分に乾燥させた後、適性ワックスを塗布すること。
- F 必要に応じて重ね塗りをする事。
- G 十分に乾燥させる事。
- H 階段は、滑り止め、蹴込み板、幅木等もすべて清掃を行う事。
- I 剥離洗浄は、汚れに応じて次の作業を行う事。

なお、洗浄範囲は別途協議とする。

- (A) 対象床面の除塵をする事。
- (B) 剥離剤を塗布し、古いワックスを除去すること。
- (C) 下地剤を1層塗布後、適性ワックスを3層以上塗布すること。
- (D) 十分に乾燥させる事。

#### (イ) 床面洗浄

- A 対象床面の除塵をする事。
- B 洗剤を床面に塗布し、ポリッシャーにて洗浄すること。
- C ウェットバキューム、スクレパー等にて、汚水を除去すること。
- D 水拭きをする事。
- E 十分に乾燥させる事。
- F 床面の汚れの状況及び作業頻度により、自動床洗浄機を使用し、施設利用者に支障なく作業を実施すること。

#### (ウ) カーペットクリーニング

- A 洗浄の基本はウェット処理とし、除菌洗浄剤を使って汚れを落とし、エクストラクター・カーペット専用洗浄機等を用いて汚水ごとに吸引して洗浄すること。
- B 洗浄後は速やかに使用できるよう、乾燥剤等の使用も併せて行うこと。また、洗浄剤や乾燥剤によっては、カーペットの色落ちを起こすことがあるので、事前に十分にテストを行うこと。
- C 清掃機械は、極力騒音のないものを使用することとし、実施時間等については当院と事前に打ち合わせを行うこと。
- D 特に汚れの激しい箇所は、状況により回数をふやすこと。

#### (エ) 窓ガラス清掃

- A 窓ガラス清掃は原則として両面拭きすること。
- B ガラス外面に適性洗剤を塗布し、汚れを除去して、ガラススクイージーで汚水を取り除くこと。
- C ガラス面及びサッシの汚水を布で拭き取る事。

#### (オ) 網戸清掃

- A 帯電除塵具を使用し除塵すること。

B 汚れに応じて、洗剤で汚れを落とし乾布で拭き上げること。

(カ) 照明器具・制気口・カーテンレール清掃

A 帯電除塵具を使用し除塵すること。

B 汚れに応じて、洗剤で汚れを落とし乾布で拭き上げること。

C 病室については、患者の退院時又は病室移動時など、患者が不在の時間帯に実施すること。

(キ) 高所・壁面清掃

A 日常清掃で行う低所部以外の柱、壁面、天井等の清掃を行うこと。

B 汚れの著しいところは除菌洗浄剤を使い、汚れを拭き取ること。

(ク) 留意事項

A 病棟の定期清掃は、入院患者の状態などによっては計画的に実施しにくい箇所があることを考慮し、病棟の入退院計画に基づき、指示があった場合に速やかに対応できる体制を整備すること。

B 清掃作業の際は、イス・ベッド等の移動可能な物は全て移動して行い、終了時はもとに戻すこと。

C 医療機器などがある箇所については、清掃手順について当院と協議のうえ実施すること。

イ 区域ごとの作業内容

(ア) 高度清潔区域

上記『5 (2) ア 定期・特別清掃基本事項』のほか、次の事項により高度清潔区域の定期清掃を行うこと。

A 清拭消毒

(A) 天井・壁・床・制気口等の清拭消毒を実施すること。

(B) 天吊機器のアーム部分を除塵及び清拭消毒を実施すること。

B 清潔床洗浄

床面の洗浄を実施すること。

C 付着細菌検査

清拭消毒作業の前後に、各室の天井・壁・床等から付着細菌を採取し、消毒効果を確認すること。

D 作業手順

(A) 室内の可動機器を清潔廊下などに搬出

(B) 塵埃などの清掃

(C) 汚れの洗浄

(D) 室内及び搬出した機器の清拭消毒

(E) 搬出した機器の搬入

(F) 電気系統の養生の徹底と撤去後の消毒

E 使用資機材・消耗品



- (A) 資機材は、病院の指定する場所に保管し、衛生的に管理すること。
- (B) E P A（米国環境保護庁）登録クリーナーを使用し薬剤効果と安全性を十分考慮すること。

(イ) 清潔区域

上記『5（2）ア 定期・特別清掃基本事項』のほか、次の事項により清潔区域の定期清掃を行うこと。

- A 入室時の手洗い、入退室時のガウンテクニック、ディスポ手袋、サージカルマスクの着脱を適切に実施し、H E P Aフィルター付き掃除機を使用した業務の実施等、区域の特性を考慮した方法により行うこと。
- B 制気口の清掃時には、除菌洗浄剤を用いて清拭を行うこと。
- C 无影灯等、天井パンチング面の血液汚染等付着箇所の清拭を行うこと。
- D 天吊機器のアーム部の除塵
- E 手術室については、上記『5（2）ア 定期・特別清掃基本事項』に基づく定期清掃を行うこと。

(ウ) 準清潔区域

上記『5（2）ア 定期・特別清掃基本事項』に基づく定期清掃を行うこと。

(エ) 一般区域

上記『5（2）ア 定期・特別清掃基本事項』に基づく定期清掃を行うこと。

(オ) 汚染管理区域、汚染拡散防止区域

上記『5（2）ア 定期・特別清掃基本事項』に基づく定期清掃を行うこと。

(3) 退室清掃

ア 作業日

患者様 退院後の病室清掃。

イ 対象

病棟（4 Fから8 F）個室 多床室。

ウ 作業内容

- (ア) ドア上部、棧、壁面上部、天井の制気口等に存在する埃等を高所除塵に適した用具（H E P Aフィルター付き掃除機又は除塵用モップ）で除塵し汚染箇所については除菌洗浄剤を用い清拭。
- (イ) ハードフロアーは、ゴミや埃が空中に舞い上がらないよう注意しながら清潔なドライモップ又はH E P Aフィルター付き掃除機で除塵を行い、汚染箇所については除菌洗浄剤を用い清拭。
- (ウ) 洗面台は洗浄剤を用いて清掃し、最後に除菌洗浄剤で清拭。
- (エ) 個室のトイレ及びシャワーについては『5（1）イ（オ）汚染管理区域、汚染拡散防止区域』の清掃に準じて作業を行い、最後に除菌洗浄剤で清拭。

(4) 日常清掃、定期清掃及び退室清掃に共通する留意事項

ア 業務従事者

高度清潔区域の清掃にあたっては、次の事項を満たす従事者を配置すること。

- (ア) 微生物の知識があり、バイオクリーンルームの知識があること。
- (イ) 少なくとも1人は医療業務に関する知識があること。
- (ウ) 下記イで定める洗浄剤に関する知識があること。
- (エ) CDCガイドラインを熟知し、清掃作業を即して行えること。
- (オ) スタンダードプリコーションを順守し、ブラッド・ボーン・パソージェン除去の実施方法についてシステムを構築し、その知識や技術に関する教育を受けていること。
- (カ) 院内感染予防に関する基本的な清掃に関する教育を定期的に受けていること。

#### イ 消毒洗浄剤

CDCガイドラインに定めているEPAに登録された消毒洗浄剤を使用すること。

#### ウ その他

- (ア) 診療業務等に支障をきたすことがないように作業すること。
- (イ) 患者の静養を妨げないこと。
- (ウ) 医療機器その他の備品の取扱いには、十分に注意すること。
- (エ) 作業区域を表示板により仕切るなど、事故防止に努めること。
- (オ) 測定機器や清掃消毒用具など、清掃作業に必要な機材は消毒済みのものを用いること。
- (カ) 設備、備品などの不良箇所を発見した場合は速やかに連絡すること。

### (5) 廃棄物収集業務

#### ア 収集内容

一般廃棄物及び産業廃棄物（感染性廃棄物を含む）

※清掃業務受託者が収集困難な大規模産業廃棄物を除く。

#### イ 収集頻度

別紙清掃作業基準表を基本とするが、ゴミ箱からゴミが溢れる場合は、収集頻度を増やすこと。

#### ウ 収集方法

- (ア) 排出個所別に病院指定の分類に従って集積したごみを集積場まで運搬し、所定の場所に集積させること。
- (イ) 収集の際、汚れ具合に応じてゴミ箱のビニール袋を交換することとし、ゴミ箱が汚れている場合は、除菌洗浄剤を使って汚れを取り除くこと。
- (ウ) 感染性廃棄物以外は、各階毎の担当従事者が運搬作業にあたって差し支えないが、注射針や感染性廃棄物・医療用ガラス瓶の回収は、充分研修を受けた特定の従事者が各階から専用容器で回収し、事故のないように注意すること。
- (エ) 一般廃棄物及び非感染性廃棄物の収集については、感染性廃棄物の混入がないか十分に留意し収集すること。

(オ) 感染性廃棄物の取り扱いにあたっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号）に基づいて行うこと。

(カ) 感染性廃棄物を収納する容器は、感染性状に応じて適切に選択されたものを慎重に梱包すること。

(キ) 施設内における廃棄物の収集及び運搬は、運搬途中で内容物が飛散する恐れのない方法により行うこと。

(ク) 運搬時間と収集終了時間を連動させて計画すること。

(ケ) 廃棄物回収場所は常に整頓された状態に保つこと。

(6) 研修医宿舎・看護職員寮清掃業務

清掃範囲及び回数

別紙 1 清掃業務基準表のとおり

(7) 衛生害虫防除作業

衛生害虫の防除は、生息状況や場所や侵入経路の調査など、予防を重視した総合的害虫管理（IPM）により行うものとする。また、薬剤を用いた防除を行う場合は、不必要な使用による健康被害の防止に留意するものとする。

ア 作業回数

年 12 回（担当者と協議し病院業務に支障がない日時で実施すること）

イ 作業範囲

病院全館

ウ 対象害虫等及び防除方法

対象害虫	防除方法
ゴキブリ ダニ等	殺虫剤を使用する場合は、薬事法の規定による承認を受けた医薬品又は医薬部外品を用いること。また、薬剤散布や調査用トラップ設置に当たっては、病院利用者の事故の防止に努めること。
ネズミ	侵入を確認した時は粘着トラップ・捕獲器等で捕獲駆除するものとする。また、殺鼠剤で死んだネズミは完全に回収できない可能性があるため、使用に当たっては当院と協議すること。
小昆虫 小バエ等	厨房や食堂については、捕虫器等を設置、数を記録、侵入ルートなどの調査改善を行うものとする。また、チョウバエ等の排水からの侵入を防ぐため、トラップの清掃と封水切れに留意すること

エ 効果判定

防除作業終了後 1 週間から 3 週間の間に防除効果の調査を行うとともに、効果判定の結果に応じて駆除作業等の適切な措置を講じること。

(8) 玄関等出入り口床用マット管理業務

床用マットの種別、品名、設置場所、数量及び交換周期は下記の表の通りとする。

ア 泥落としマット

品名／設置場所	サイズ (mm)	数 量
風除室-1 屋外	1,930×3,000	1 枚
風除室-2 屋外 (誘導表示付)	1,930×3,150	1 枚
時間外出入口 屋外	1,930×3,000	1 枚
デイケア出入口	1,200×1,950	1 枚
サービスヤード出入口 屋外	1,700×1,950	1 枚
内視鏡 屋外	1,350×1,950	1 枚
エネルギーセンター出入口 屋外	1,500×1,950	1 枚
地域連携出入口 屋外	1,800×1,950	1 枚
センター出入口 屋外	1,350×1,800	1 枚
保育所出入口 屋外	1,500×2,000	1 枚

イ 屋内用マット (賃借)

品名／設置場所	サイズ (mm)	数量	交換周期
サービスヤード出入口	1,200×1,800	1 枚	月 2 回
霊安室出入口	1,500×2,400	1 枚	月 2 回
ゴミ庫出入口	900×1,500	1 枚	月 2 回
デイケア出入口 (風除室)	1,460×1,730	1 枚	月 2 回
デイケア出入口 (ホール側)	1,630×1,700	1 枚	月 2 回
内視鏡	1,910×3,100	1 枚	月 1 回
風除室-1	2,000×3,280	1 枚	週 1 回
風除室-1 (ホール側)	2,000×3,900	1 枚	週 1 回
風除室-2	1,200×3,280	1 枚	週 1 回
風除室-2 (ホール側)	1,900×3,350	1 枚	週 1 回
時間外出入口	2,000×4,000	1 枚	月 2 回
地域連携出入口	2,000×3,630	1 枚	月 2 回
エネルギーセンター出入口	1,500×1,800	1 枚	月 1 回
センター出入口	1,930×2,130	1 枚	月 2 回
保育所出入口	1,390×1,410	1 枚	月 2 回
救急 (個人別出入口)	900×1,500	1 枚	月 2 回
スタッフ出入口 3	1,500×2,400	1 枚	月 2 回
栄養管理科出入口	900×1,200	2 枚	週 1 回

ウ 管理の方法

(ア) 泥落としマット

日常的にマットに混入する土砂を吸塵すること。

(イ) 屋内用マット（賃借）

受託者は、常にクリーニングされたマットを、『上記 5（8）イ』に示す周期に基づき交換すること。

6 マニュアルの作成

(1) 標準作業書

受託者は、次に掲げる事項を記載した標準作業書を作成し、当院の確認を受けること。また、確認を受けたのち、業務従事者に周知を図ること。

ア 区域ごとの作業方法

イ 清掃用具及び消毒薬等の使用及び管理の方法

ウ 感染の予防

(2) 業務案内書

受託者は、次に掲げる事項を記載した業務案内書を作成し、当院の確認を受けること。また、確認を受けたのち、業務従事者に周知を図ること。

ア 業務の内容及び作業方法

イ 清掃用具及び消毒用具

ウ 業務の管理体制

7 使用する資機材及び薬剤等の承認

使用する資機材及び洗剤等については、対象エリアに合った物を選定し、当院の承認を得ること。

## 8 費用負担

施設総合管理業務委託仕様書によるもののほか、清掃業務に関する費用負担は下表のとおりとする。

	当院	受託者
トイレットペーパー	○	
ペーパータオル	○	
手洗い石鹸水	○	
塵芥用ビニール袋	○	
医療廃棄物収納容器	○	
消毒薬(手指消毒用)	○	
ディスポガウン (高度清潔区域のみ)	○	
ディスポキャップ (高度清潔区域のみ)	○	
ディスポ手袋 (高度清潔区域のみ)	○	
サージカルマスク (高度清潔区域のみ)	○	
資機材、消耗品等の保管庫	○	
清掃資機材等の洗浄及び乾燥等に必要な場所	○	
院内の什器備品 (棚、事務机、椅子等)	○	
清掃用資器材		○
清掃用洗剤、保護剤、消毒薬類、ワックス、害虫駆除用薬剤等		○
従事者の被服費		○
業務に必要な事務用一般消耗品		○
通信費 (通信設備に関する工事費を含む)		○
従事者に対する研修費用		○
業務開始までに生じる費用の一切		○